



AR



▲前年王者の強さと貫録を見せつけたレッドファルクス。

磨き抜かれた末脚で堂々の連覇

秋のGIシーズンの幕開けを飾るスプリンターズステークス。その51回目の開催が、天候は曇りながらも、良好な馬場状態のもとで行われた。

1番人気に推されたのは連覇を狙うレッドファルクス。GI初制覇となった前年の3番人気とは違い、単勝オッズ3.2倍の堂々たる主役としてこの大舞台に戻ってきた。そして6月の安田記念(3着)以来、約4か月ぶりの実戦になると不安要素も一部では囁かれたが、レッドファルクスはこうした雑音を封じ込めるような見事な走りを披露した。

ゲートが開いて激しい先陣争いを繰り広げた中から先頭を奪いきったのは4歳牝馬、ワンスインナムーン。これも牝馬のダイアナヘイローが続き、春の高松宮記念でレッドファルクスらを抑えて優勝したセイウンコウセイは7番手あたりを進んだ。レッドファルクスは前の流れを見ながら中団の後ろに待機。いつでも動ける態勢を取りつつ、抜群の手応えでレースを進めた。

そして迎えた直線。先頭のワンスインナムーンは早めに仕掛けて2番手以下を突き放そうとするが、内ラチ沿いの狭いところを通って2年前の桜花賞馬レッツゴードンキがスルスルと伸びて、それを交わしていく。そこへ外から豪快に追い込んだのがレッドファルクス。一完歩ごとに前を追い詰めると、インコースで踏ん張るレッツゴードンキをクビ差捉え、余裕の脚色でゴールを駆け抜けた。

2番人気のメラグラーナは後方から伸びたが7着まで押し上げるのが精一杯。3番人気のセイウンコウセイは直線で後退して11着に大敗した。また香港から参戦したブリザードは12番人気という低評価だったが、先団からじわじわと伸びて5着に食い込んだ。

サクラバクシンオー(1993-1994)、ロードカナロア(2012-2013)に続き、1990年のGI昇格以降3頭目となる本レース連覇を達成したレッドファルクス。ミルコ・デムーロ騎手は「休み明けだったのは去年と同じ。状態は良かったし、自信はありました」と笑顔をこぼし、素晴らしい末脚を見せた愛馬を称えた。



逃げるワンスインナムーン(帽色・赤・左)が直線を向いて、後続を引き離しかかる。

第51回スプリンターズステークス(GI)

10/1 中山競馬場 1200m(芝・右・外) 晴・良 16頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	調教師	タイム	/着差	入気	通過順位
1	レッドファルクス	牡6	57	M.デムーロ	尾関 知人	1:07.6	①	⑪⑩	
2	レッツゴードンキ	牝5	55	岩田 康誠	梅田 智之	クビ	⑤	⑨⑦	
3	ワンスインナムーン	牝4	55	石橋 倫	斎藤 誠	1/2	⑦	⑪①	
4	ソノードラゴン	牡9	57	大野 拓弥	高木 登	クビ	⑯	⑫⑫	
5	ブリザード	駆6	57	G.モッセ	P. イウ	クビ	⑫	⑦⑦	
6	ビッグアーサー	牡6	57	福永 祐一	藤岡 健一	クビ	⑧	③②	
7	メラグラーナ	牝5	55	戸崎 圭太	池添 学	1/2	②	⑭⑭	
8	ダンスディレクター	牡7	57	浜中 俊	笹田 和秀	アタマ	⑨	⑨⑩	
9	フィドゥーシア	牝5	55	三浦 皇成	松元 茂樹	ハナ	⑯	③②	
10	ショウジ	牡4	57	横山 弘典	須貝 尚介	1/2	⑯	⑯⑯	
11	セイウンコウセイ	牡4	57	幸 英明	上原 博之	クビ	③	⑦⑤	
12	ファインニードル	牡4	57	内田 博幸	高橋 義忠	1 1/4	⑥	③⑦	
13	ライムーティア	牡7	57	西田 雄一郎	水野 貴広	ハナ	⑯	⑮⑮	
14	モンドキャンノ	牡3	55	池添 謙一	安田 隆行	アタマ	⑪	⑫⑫	
15	ダイアナヘイロー	牝4	55	武 豊	福島 信晴	アタマ	④	②②	
16	ネロ	牡6	57	勝浦 正樹	森 秀行	ハナ	⑯	③⑤	

単勝 ⑧320円 複勝 ⑧140円 ②300円 ⑥350円 枠連(1-4)1,470円

馬連 ②-⑧1,760円 馬単 ⑥-⑧2,890円 ワイド ②-⑧630円 ⑥-⑧860円 ②-⑧2,100円

3連複 ②-⑥-⑧7,650円 3連単 ⑧-②-⑧31,850円

ハロンタイム 11.9-10.8-11.2-10.9-11.1-11.7

通過タイム 600m 33.9-800m 44.8-1000m 55.5

優勝馬 レッドファルクス

2011.4.12生 父スウェントーオーヴァーボード 母ベルモット 母の父サンデーサイレンス
千歳・社台ファーム生産 馬主:(株)東京ホースレーシング

スプリントーズステークス